

# CNALレポート・ジャパン

Conferencing industry News report, research & Analysis - CNA Report Japan

発行日：毎月 10 日・20 日・月末  
創刊日：1999 年 12 月 8 日  
編集 / 発行：橋本 啓介

テレビ会議・ウェブ会議・電話会議システム専門 定期レポート

Vol. 8. No.26 2006 年 10 月 10 日号

編集:[editor@cna.jp](mailto:editor@cna.jp) 広告:[pr@cna.jp](mailto:pr@cna.jp) 読者登録:<http://cna.jp>

Copyright 2006 CNA Report Japan. All rights reserved.

## ニュース項目

ソニー、HD 高画質モデルのHD対応ビデオ会議システムを発売、コミュニケーションにおける究極の映像と音声を追求、PCSシリーズとしては初めてステレオ音声にも対応



### PCS-HG90

ソニーマーケティング株式会社(東京都港区)は、HD(ハイディフィニション)に対応したHDビデオ会議システム「PCS-HG90」と、HD対応3CCDを搭載した「PCSA-CHG90」を10月1日より発売。

PCS-HG90は、既存のIPELA PCSビデオ会議システムシリーズから更に飛びぬけた高画質・高音質の商品である。IPELA PCSシリーズとしては、PCS-HG90が加わることによって、デスクトップから、セットトップ、そして今回のHD高画質モデルと多様なニーズに対応できる製品ラインナップを揃えることになる。

今回PCS-HG90の特長について国内販売を手がけるソニーマーケティング プロフェッショナルビジネスマーケティング部 BSプロダクツ MK 課西山章博氏は次のように述べる。「PCS-HG90は、IPコミュニケーションにおける究極の映像品質を追求したハイエンドの製品。当社のこれまで放送関

連で培われた映像技術が生かされている。また、映像だけではなくそれに伴う音声や、インテリジェントなネットワーク帯域管理、そしてAVシステムのインテグレーションに対応できるインターフェイスを装備。ビデオ会議システムとしてだけではなく、あらゆる高品質を求める映像コミュニケーション用途に対応できると自負している。基本的には、映像や音声の品質を十分生かすためにはPCS-HG90のセット導入を推奨する。」

PCS-HG90は、ビデオ会議システムという会議に限定した使い方よりも、教育現場での遠隔授業、実物大のデザイン設計などの詳細打ち合わせ、高画質映像による定点観測、医療現場での遠隔サポート、放送局などの簡易ライブ中継用などでのコミュニケーション用途等を主に提供先として考えているようだ。映像の品質が特に重視されている用途ということだ。

PCS-HG90の製品発表(9月27日)にともない、ソニーメディアワールド(東京都港区品川)では、フルHDの映像品質解像度を4面表示できるSXDRプロジェクターと表示用の200インチスクリーン、そして、映像帯域は、PCS-HG90のフルスペックの8Mbps(60フレーム/秒)を使用してデモが行われた。(次ページ写真)

そのデモでは、造花、瓶に入ったシャンプーの泡、指ほどのサイズのひよこの置物の毛一本、あるいはカタログの文字などの被写体をとらえたものから、動画コンテンツ映像、そして対向でのビデオ会議接続、ホワイトボードを使った疑似遠隔講義、PCの画像(エクセル、CAD、パワーポイントのアニメーションなど)などを表示。色の再現性やグラデーション、物の質感を細部まで細かく見える映像が体験できた。

PC画像については、「単独の信号チャネルを使わず、HD映像信号チャネルにPC画像信号を載せて送信する。

従来のビデオ会議システムの中には、SD 規格の映像信号チャンネルと同様な仕組みで PC 画像を送信するシステムがあったが PC 画像が画面上で若干滲んで見えるというデメリットがあった。PCS-HG90 では、XGA 信号を HD 映像信号チャンネルに変換し 60/30 フレームで遠隔地に送ることにより、細かな文字はもちろん、アニメーションなど動作を伴う表示もスムーズ。」(ソニー B&P 事業本部 IPELA 部門)

写真右：SXDR プロジェクターと表示用の 200 インチスクリーン、映像帯域は、PCS-HG90 のフルスペックの 8Mbps (60 フレーム/秒) を使用してデモ。(ひよこの毛並みやシャンプーボトルの泡まで細かく見える。細部までのディテールと色の再現性は非常に高い。)



ズームは、光学 12 倍、デジタル 4 倍。パンは水平 + - 170°、チルトは、垂直は、+90° から - 25° と広い撮影範囲。パン、チルト、ズームの操作は、PCS-HG90 本体からの

#### PCS-HG90

の通信帯域は、512kbps から 8,192kbps まで対応。最大 4 地点までの多地点接続に対応 (2.5Mbps/地点を推奨、ボイスアクティベート(発声で表示映像が切り替わる)のみ)。通信プロトコルは、H.323 に準拠しているが、映像符号化は、H.264 のみに対応している。

音声符号化には、従来の G.711、G.722、G.728 に対応とともに、MPEG-4 AAC (22Khz/44Khz) のステレオ音声、ステレオエコーキャンセラー機能をサポート。「PCS シリーズとしては今回初めてステレオ音声に対応した。44Khz ステレオ音声に対応したというのは、映像だけではなく、音声でも品質の高い音を提供したいと考えからだ。ステレオ音声という高品質な音声は高品位な映像を生かす上で重要なポイントだ。」(ソニー B&P 事業本部 IPELA 部門)

PCS-HG90 には、パン/チルト/ズームの HD カメラユニット「PCSA-CHG90」を別売りとして提供する。

PCSA-CHG90 は、総画素数 112 万画素、1/3 型 HD 対応 3CCD を採用。高感度でスミアを低減した撮影が可能。レンズは、大口径 72mm のカールツァイス「バリオ・ゾナー T」レンズを採用。多層膜のコーティングが施されており、レンズ内の不要な光の反射を抑え、フレアやゴーストを低減。より忠実に光りを取り込み、コントラストの高い色再現性に優れている。

VISCA カメラプロトコルで制御。また、PCS-HG90 と接続するケーブルは、最長 100m までの配線距離を取れ、PCSA-CHG90 を天井つり下げに対応するなど環境に合わせた設置が可能だ。

本体の PCS-HG90 は、PCSA-CHG90 のカメラユニットを接続するだけでなく、他の入力あるいは出力装置への豊富なインターフェイスも提供している。PCS-HG90 の映像入出力はデジタルの HD-SDI 端子、アナログコンポーネント (YPbPr) の HD 信号 (1080i / 720p) を、また、音声信号の入出力には、XLR 端子を装備するため、放送業務用機器などとの映像音声システムの構築も対応する。SD 信号入力にも対応し、DVD などの映像コンテンツを利用することも可能。各種入出力端子は、PCS-HG90 本体背面に配備。

「映像入出力は、1080i で対応しているが、ネットワーク

転送時は、720p にダウンコンバートして送受信する仕組み。しかし、映像入力から処理、出力までフルデジタル処理を実現している。また、豊富な入出力インターフェイスを持つことによって、多様な映像音声のインテグレーションに対応できるのが PCS-HG90。」(ソニー B&P 事業本部 IPELA 部門)

PCS-HG90 では、帯域やパケット転送管理を自動で行うインテリジェントな QoS システムを内蔵している。映像音声をネットワーク送信時でも、映像音声の劣化を最小限に抑え劣化の少ない品質を保つためだ。



#### PCS-HG90 背面

インターネットなどベストエフォート型のネットワーク上での映像転送では、パケットロスリスクが常に発生しており、IP 上での映像コミュニケーションにとって致命的になる場合がある。そのリスクを最小化するためのインテリジェントな QoS の仕組みを PCS-HG90 は持つ。それは「リアルタイム ARQ (パケット再送機能)」、「ARC (最適レート制御機能)」、「アダプティブ FEC (前方誤り訂正機能)」の技術から成る。

IP ネットワーク上では、パケット方式にてデータが送受信されるが、ネットワーク上の帯域や回線的な混み具合、経路上のルーターの処理などにより、パケットロスが生じる。PCS-HG90 が提供する QoS システムでは、ネットワークの回線状況に応じて、パケット再送リクエストによるデータの復元、送信レートの変更、パケットサイズの変更を、ARQ、ARC、FEC が相互に連動してリアルタイムに行う。

その他の PCS-HG90 の機能としては、従来の PCS シリーズと同様にメモリーステックにも対応。PCS-HG90 では映像の録画は高画質、高音質のため対応(データ容量が大きい)していないが、静止画の読み出し、保存、機能設定保存、プライベートアドレス帳(自動発信機能)などには対応し

ている。

価格は、PCS-HG90 が 360 万円(税抜き)、PCS-CHG90 が 100 万円となっている。受注生産となっている。PCS-HG90 の購入価格には、1 年間の保守サービスも付く。保守サービスについては、ソニーブロードバンドソリューション株式会社(東京都港区)から提供される。

提供するアクセサリは、エコーキャンセラー付き単一指向性マイク「PCSA-A7P4」、単一指向性マイク「PCSA-A3」、無指向性マイク「PCS-A1」が提供されている。

PCS-HG90 は、10 月 18 日から 20 日まで開催される日経 BP 社主催の BizInnovation 2006 ビジュアルコミュニケーション Autumn 2006(東京ビックサイト)にて国内初めて一般公開される。

#### 【編集長橋本のコメント】

ビデオ会議の主要メーカーが今年 HD 対応の製品をリリースしてきている中で、ソニーはどのような製品を出してくるのかという点で注目していた。

ソニーの担当の方へも言ったが、この PCS HG-90 のデモを拝見した時に思ったのは、一昔前以前のビデオ会議システムを思い出したことだ。

90年代は、ようやく H.320 の端末が主流になりつつあったころだったが、その頃のコーデックの性能、符号化方式、使用する帯域、映像品質を思い出すと、あのころはあのころで私個人的には大きな感動をしていた覚えがあるが、いよいよビデオ会議の映像品質もここまで来たかと感慨深いものがあった。

今回の PCS-HG90 は、他社から発表されている HD 端末とは単純に比較ができないと思う。PCS-HG90 は、映像品質にこだわった製品という。

映像品質は細部までディテールがよくわかる高精細で、無論、会議用途での活用が可能であれば、音の良さも含めこれほど気持ちよい映像品質はないと思うが、コストを考えるともったいないという感じもした。やはり、

PCS-HG90のこれだけの映像音声の品質とインテグレーション能力、そして製品自体が受注生産などを考えると、汎用的位置づけというよりは、ニッチなニーズにまず対応しようという考えと思われる。

高い映像品質を求められるアプリケーションに活用することがこの製品を最大限に活用できるポイントではないかと思う。そういった点だと、放送向けの簡易中継システムとして、遠隔教育、等身大の設計デザインなどの用途に適しているのではないかという印象を持った。たとえば、遠隔教育では、ホワイトボードに書き込む先生を200インチで表示できれば、先生の表情やホワイトボードの文字もよく見える。

また、PCS-HG90は、H.323に準拠しつつも、映像コーデックは、H.264のみしか対応していない。一般的なビデオ会議システムであれば、H.261、H.263などにも対応している場合が多いが、その点、H.264のみということは、やはり、一般の会議はあまり想定してはいないということか。PCS-HG90同士でのビデオ会議用途で導入もありえるが、その場合はやはり、100インチレベル以上のディスプレイあるいはスクリーンがいいと思う。

価格は高いとかH.264のみの対応は十分かという議論が欧米でも聞かれるが、それはPCS-HG90をテレビ会議用途に当てはめて考えようとしているからと想像する。

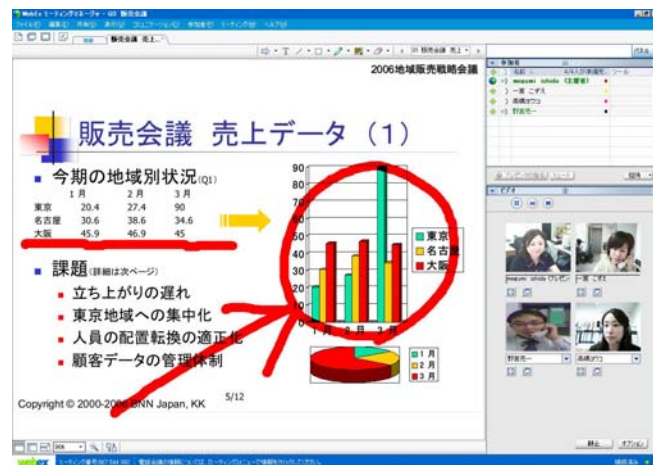
ソニー自体“ビデオ会議システム”とプレス発表では行っているが、従来のビデオ会議の考え方からすると、少し次元が違うところから捉えたほうがよい製品という印象を持った。一言でいえば、ビデオ会議製品と映像伝送専用装置の中間的な製品とでも言えようか。

## WebEx 日本法人、グループウェアのイントラネットを経営統合

ウェブエックス・コミュニケーションズ・ジャパン株式会社(東京都港区)は、中小企業向けグループウェアを提供するイントラネット株式会社から、2006年10月1日付けで全事業の譲渡を受けることに合意し、経営統合を実施した。

今回の経営統合は、昨年2005年9月に米国本社の

WebEx Communications 社が行った Intranets.com 社(イントラネットは、Intranets.com 社の日本法人。)の友好的買収、それに続く、2006年3月には、日本法人同士で業務提携を発表した。今回の経営統合は、それらを受けて実施されたもの。



## WebEx MeetingCenter



## Intranets PRO

両社の統合により、日本市場においても、大企業から中小企業までさまざまな企業に、リアルタイムな情報共有手段であるウェブ会議と、ノンリアルタイムな情報共有手段であるグループウェアといった幅広く、質の高いサービスを提供できる体制となった。

ワールドワイドでのWebExは、世界に25,100社の顧客、市場シェア(Frost & Sullivan 社、2005年調査結果)64.4%

を持つウェブ会議市場では、世界シェアトップの企業。また、今回の統合で WebEx の日本市場における顧客数は、5 倍に増えたことにより、日本のオンデマンドウェブソリューション市場での存在をより強固できると同社では見る。そして、これまで以上に、強力なマーケティング、セールス活動を行い、サービスの拡販による大幅な売上の増加を目指す。

(関連記事:CNAレポート・ジャパン Vol.7 No.15 2005年8月15日、Vol.8 No.7 2006年3月10日)

### ジャパンメディアシステムの LiveOn、バージョン 3.1 を 10 月からリリース。暗号化強化、IE7 に対応など。

ジャパンメディアシステム株式会社(東京都千代田区)は、同社の PC 向けテレビ会議システム「LiveOn(ライブオン)」の Ver3.1 ASP 版を 10 月 1 日にリリースする。

今回の新バージョンでは、(1)通信の暗号化に対応。無、低、中、高の暗号化レベル選択の追加、(2)資料共有の機能追加、(3)重複 ID での入室確認機能。既に入室しているユーザーIDで会議室に入室を行おうとした場合、入室を行うか確認する機能。(4)ユーザーID変更機能。ユーザーIDを変更することが可能。(5)入室履歴参照機能。ユーザー情報画面から入室履歴を一覧表示する機能を追加。(6)マイクロソフト Internet Explore7 に対応。今秋公開を予定されている Internet Explore7 へ対応した。

LiveOnは、Internet Explorer 上で動作し、URLにアクセスするだけで簡単に使用することができる。資料共有、ホワイトボード、会議開催メール、録音録画などの機能を持つ自社開発のシステムで、サポート体制の充実、カスタマイズ、送受信のトラフィック監視、質の高い映像と音声を実現している。LiveOn は、ASP 版とイントラパック版(1000 拠点まで対応)を用意している。

既存の LiveOn(Ver.2.1)のユーザーは、無償にて今回の新バージョン 3.1 へバージョンアップを行える。

### モーラネットのウェブ会議サービス、バージョン 3.1 へ、通信の暗号化、Internet Explorer7、画像処理の高速化、サーバの 64 ビット対応など

株式会社モーラネット(東京都港区)は、2006年10月1日に、同社のウェブ会議サービス「MORA Video Conference(モーラビデオカンファレンス)」を Ver3.1 へバージョンアップする。

新バージョンでは、通信の暗号化、Internet Explorer7、ユーザーID変更、入室履歴参照を追加するとともに、印刷機能の強化、画像処理の高速化、入室処理の変更、サーバの 64bit 対応などが含まれる。日本語版、英語版と2言語に対応。

MORA Video Conference は、ASP 版とイントラ版の2種類が提供されており、ASP 版では、初期費用 78,000 円/1ID、月額費用 2,000 円/1ID、イントラ版では、200 万円/10ライセンスから (税別)。

同時接続人数 20 拠点までの通常会議セッションから、最大 1000 人まで入室が可能なセミナー形式の会議が開催できる多人数モードなどを提供している。帯域が狭いところでは、映像より音声優先に通信する仕組みがあり、CD 並の高品質音声も可能。社内のファイアーウォールにも対応。

### クレオ、日本電気通信システムと共同でかんたん、シンプル・使いやすいウェブ会議システムを開発

株式会社クレオ(東京都港区)と日本電気通信システム株式会社(東京都港区)は、「かんたん、シンプル・使いやすい」インターフェイスのウェブ会議システム「FACE Conference 5 かんたんエディション」を共同で企画・開発した。

FACE Conference 5 かんたんエディションは、2006年4月に販売を開始した FACE Conference ORIGINAL をベースとして、大きなボタンを配置することで視覚的にわかり

やすくし、会議に参加するまでの操作を大幅に簡略にした。

ログインすると、「会議参加」と「会議作成」の2つの大きなボタンが表示され、パソコン操作に不慣れでも、わずか3回のクリックで簡単に会議を開催できる。よく使う機能のみが大きなボタンで表示されているため、マニュアルなしで使用できる。同社 FACE Conference は、200 社以上の導入実績がある。(関連記事:CNAレポート・ジャパン Vol.8 No.16 2006年6月10日)

### 【海外 news】アエスラ社、インドに支社設立

イタリアのテレビ会議メーカーアエスラ社は、9月12日インド支社を開設したと発表。

IT 業界において欧米企業の多くがインドに外注している状況から、アエスラ社としてもグローバルなビジネス展開を行っていく上で、また、インドでのテレビ会議事業の拡大のために、インド国内にアエスラの事業基盤を置くことが重要だと判断した。

インド支社は、インドの首都で政治の中枢であるニューデリーに設置。今回の設置はアエスラ社にとっては、グローバル事業展開戦略における新しい試みとなり、インドを含む南アジア諸国を調整管理する拠点となる。

インド支社リージョナルセールスディレクター SAARC 国担当には、Harshad J. Contractor 氏。同氏はテレビ会議業界では経験が豊富。また、テクニカルサポートセンターは、ムンバイに設置。

アエスラ製品の日本国内総代理店は、VTV ジャパン株式会社(東京都千代田区)。

### 【海外 news】Emblaze-VCON、Media Xchange Manager バージョン 4.5 をリリース

イスラエルの Emblaze-VCON 社の発表によると、「Media Xchange Manager (メディア・エクスチェンジ・マネージャ)」のバージョン 4.5 をリリース。

Media Xchange Manager は、テレビ会議ネットワークの端末(H.323/SIP)やシステム管理、設定、会議予約、議長コン

トロール、データ共有機能などを内蔵。コール転送、ピックアップなどのテレフォニー的な機能も併せ持つ。またオプションを組み合わせれば、多地点接続やストリーミング、ファイアーウォール/NAT 越え、暗号化、モニターツール、レポート機能などの機能も追加できる。システム拡張時には、ライセンス数を追加するのみ。

テレビ会議ネットワークを効率的に管理運用していくための最新技術を投入したシステムと同社では説明する。日本では、日本システムウェア株式会社(東京都渋谷区)で販売している。

### 【海外 news】Electronic TeleSpan:北米の無料電話会議サービス事業者 Freeconference.com が自社株の8割を売却



買収は売上好調の結果と事業の将来性から。同社の北米電話会議市場(サービスベース)では、約3%のシェア。

<http://www.telespan.com>

May 29<sup>th</sup> 2006 Vol.26 No.20:Freeconference.com gets snapped up: Investors plan to grow its revenues and market share. Company now accounts for nearly 3% of the North American minutes (by Elliot M. Gold, Publisher, TeleSpan)

無料電話会議サービスを提供する米 Freeconference.com 社が、2006年4月に、American Capital Strategies 社である投資会社に自社株の内84%を売却した。American Capital Strategies 社は、株式上場会社で投資ファンドとしては、770億USD(約9200億円)を持ち、過去1年間(2005年5月時点からみて)の投資実績残高は、410億USD(4900億円)。成長が期待できる企業へ投資を積極的に行ってきた。

American Capital Strategies 社が Freeconference.com 社の買収を発表したのは、5月25日。買収事実は公表さ

れたが、その買収額や買収にあたっての Freeconference.com 社の財務状況などは開示されなかった。

買収は、この Freeconference.com 社と、音声用多地点接続装置を開発する Integrated Data Concepts 社両社の持株会社である Global Conferencing Partners 社の株式を買収へも及んだ。これらの子会社は、Warren Jason 氏が 22 年前に設立した会社で、当初は、音声シャット(GAB:グループ・アクセス・ブリッジ)市場に向けてのサービスを展開。そして、7 年前に、電話会議無料サービス(但し、アクセスポイントまでのコールは通話料がかかった)の事業を開始したのが Freeconference.com 社の始まり。

その後、事業拡大とともに、無料のシンプルな電話会議サービスだけではなく、多機能な有料電話会議サービスや、通話料がかからないフリーダイヤルの電話会議サービス、OEM サービス事業(他の電話会議、ウェブ会議事業者へサービスプラットフォームの提供を受託する事業)も行ってきた。

現在は、同社の営業拠点は北米に約12カ所、そして海外には、イギリスとドイツに海外拠点を持っているが、今後は、ニュージーランドやフィリピンなど英語が通用する国々を中心に事業を拡大していきたいと考えている。近年オーストラリアからの利用が急激に拡大しているという。

Electronic TeleSpan ニュースレターとしては、過去4年ほどこの Freeconference.com の企業を取材してきたが、常に読者や業界などのアナリストから常に問われてきたものは、「しかし、無料の電話会議サービスが儲かるのか。そのような会社を買収した意義はどこにあるのかと思わざるを得ない。」ということだ。取材する意義があるのかということも含めて。

Electronic TeleSpan としては、Freeconference.com 社と NDA(秘密保持契約)を結び、同社の財務状況について説明を受けた。公にはその詳細については説明できないが、利益は出ており、実質的に、この会議システム業界のどの企業よりも売上は急速に拡大しているということはわかった。

創業者の Warren Jason 氏がその際に話してくれたことは、まず、無料電話サービスから入ってくるユーザーを、アップセルの販売手法で顧客に提案することで有料の会議録音サービス、フリーダイヤル電話会議サービス(アクセスポイントまではフリーダイヤルでコールできるがサービス利用としては有料)を利用していただくことや、あるいは、他の電話会議、ウェブ会議事業者への OEM サービス事業などから収益を上げるといった事業の仕組みを構築した。

また、同氏によると、5%から 10%の無料電話ユーザー顧客が、有料サービスへ移行しているということと、OEM サービス先 12 社の電話会議あるいはウェブ会議サービス事業者が、自社のサービスを充実化させるために Freeconference.com 社へ委託している状況だという。その内の半分のウェブ会議サービス事業者が音声部分の機能を Freeconference.com 社へ委託している。

今年中には、Freeconference.com でもウェブ会議サービスも提供開始を考えており、無料電話会議サービスを利用しているユーザーに対してアップセルで対応していくという。

今年の4月には、Freeconference.com 社は、4100 万サービス分の電話会議サービスを提供した。

そのうちフリーダイヤル電話会議サービス分は、160 万サービス分だった。フリーダイヤル電話会議サービスの方あたりのサービス利用料は、10セント(約12円)で、4月のそのサービス分としての売上は、16 万 USD(約 1900 万円)。

どういったユーザーが利用しているのかということでは、電機メーカーや新聞社などの大手企業が行うビジネス電話会議から、オーストラリアの宗教上のお祈りをグループで行う人たちなどさまざまだという。

Freeconference.com 社は、4 月末現在で、24 万の利用顧客契約があるが、利用契約なしでも使えるサービスのため、約 50 万の不特定のユーザー顧客も同社のサービスを使っている状況だという。不特定のユーザー顧客は、定期的に使うかどうかわからないため、自身の利用契約を設

定していないと思われる。

TeleSpan が、集計した Freeconference.com 社のサービス利用時間等については、下に表としてまとめた。同社は、北米電話会議市場では、約 3%(サービス利用時間ベース)のシェアを持っている。

	06年4月	05年5月	Q 伸び
利用契約数	240,104	147,749	62.5%
サービス分(フリーダイヤル)	1,600,392	898,810	78.1%
サービス分	39,825,798	31,173,922	27.8%
サービス分合計	41,426,190	32,072,732	29.2%

\*TeleSpan Publishing Corporation 集計 Q=四半期

Warren 氏は、次の約 18ヶ月(2006年5月時点)までは、同社に CEO として、また取締役として他の4人の社員とともにその現役職で勤務を継続する予定だ。彼がその役職で勤務する間に、フルタイムの社員を 18名まで増員する予定だ。そして、Warren 氏自身、10%の普通株式を保有することで、Freeconference.com 社など各社に対する投票権を持ちつつ、取締役としての地位として今後も留まる予定だ。

Freeconference.com に関する記事は、Electronic TeleSpan July 22,2002,pp.7-10、February 23,2004, p1、March 31,2003,pp 2-3、June 23,2003, p1、September 8,2003,pp 9-10 など。

(CNAレポート・ジャパン関連記事:Vol.5 No.22 2003年12月30日、Vol.6 No.14 2004年9月15日)

## ショートニュース項目

◆PC向けビデオ会議システムソリューション「Visual Nexus」を開発するトーマンサイバービジネス株式会社(東京都品川区)は、10月1日をもって、TCBテクノロジー株式会社(同住所)へ社名(商号)変更を行った。同社は、2006年6月22日の第10期定時株主総会において商号変更の決議を行っている。

◆【海外 news】米ウェブ会議サービス大手の WebEx Communications 社の発表によると、米 Wired 誌の発表する

トップ10のリーディング企業のうち9社が業務の効率化や生産性の向上にウェブ会議サービスを活用しているという。米 Wired 誌は、毎年旬なトップ企業40社リストを発表している。

【海外 news】米 HD ビデオ会議メーカーLifeSize Communications 社は、2500万USD(約30億円)の第三者割当増資を実施。増資引き受けには、Lehman Brothers Venture Partners 社を筆頭に、既存の出資社である Austin Ventures 社、Norwest Venture Partners 社、Redpoint Ventures 社、Sutter Hill Ventures and Pinnacle Ventures 社などがある。これに先立ち同社は、日本、インド、ドイツに支社を設置したとのプレス発表が出ている。日本は重要市場と捉えており、マーケティングや販売を強化する考え。

## セミナー・イベント情報

### BizInnovation 2006

#### ビジュアルコミュニケーション Autumn 2006

日時:2006年10月18日-20日

場所:東京ビックサイト

主催:日経 BP 社

\*BizInnovation 2006 の特設イベントとして開催。

詳細・申込:

<http://expo.nikkeibp.co.jp/biz/vc/index.shtml>

### ポリコム新製品発表セミナー

日時:2006年11月8日(水) 15:00~(開場:14:30)

場所:ホテルニューオータニ ザ・メイン アークード階「悠の間」

主催:ポリコムジャパン株式会社

\*次世代ビデオ会議システムの発表:UltimateHD ソリューション、利用事例など紹介。

詳細:<http://www.polycom.co.jp/event/061108/>

## 編集後記

日々CNA レポート・ジャパンへのご協力、ご支援ありがとうございます。今号もお読みいただきましてありがとうございました。また、定期レポート英語版は、本日10日夜発行予定です。今後とも何卒よろしくお願い致します。

編集長 橋本